

Team C グループ活動まとめ

2024/12/17 Lib 活 県民が編むかながわの半世紀 第3期

1. 「つながる・広がるかながわ」に対するチームの共通の視点

「かながわの深層を支えているもの、未来へつなぎたいこと」

約 923 万人が暮らしている神奈川県。便利で豊か、首都圏の中でも華やかで住みやすいと県内外から評価されている。表 1 に示したように、我々はそれぞれの視点から神奈川の住みやすさの深層を探り、受け継がれてきたもの、未来につなぐべきものを明らかにした。

2. メンバー紹介

- ✓ C 1 : 集合時間に誰よりも早く到着。だがもの静かで気づかれにくい
- ✓ C 2 : 県立図書館へは横浜駅から歩きます。紅葉坂がキツイから
- ✓ C 3 : その着想はどこから？発想の広がりには誰にも止められない
- ✓ C 4 : あふれ出す好奇心。どんな話題でも食欲に追求する
- ✓ C 5 : 着想がユニーク。テーマを広げ過ぎて迷走しないか心配

3. 個人テーマ

表 1 個人の研究テーマ

C 1	道の駅の 30 年 ～なぜ神奈川県に道の駅が少ないのか？～
	県内に 4 つしかない道の駅。地域振興としてこれまでに複数の市町村から企画が立てられたが、その多くは実現していない。それは何故か。県の面積が小さいことだけでは説明できない阻害要因を探る。
C 2	神奈川の水の恵をつなぐ ～未来のために県民としてできること～
	神奈川の水がめである 4 大ダムは昭和から平成にかけて開発された。県民はその恩恵を享受しているが、水道事業の存続には施設の老朽化といった課題がある。美味しい水を未来につなぐために、県民としてできることは身近なところにあった。
C 3	神奈川民間学の誕生 ～横浜いのちの電話設立期の考察～
	能登半島地震でいのちの電話とはじめて出会い、電話による危機介入という役割を知った。日本に於けるいのちの電話の歴史をたどってみると、横浜いのちの電話の設立期に神奈川県民による創造的で独創性のあるユニークな活動があった。
C 4	みなとみらい 21 開発小史 ～地理的・歴史的背景と街づくりの新たな試み～
	なぜ日本初の鉄道の終点駅だった横浜駅は二回も移設されたのか？なぜみなとみらい 21 計画はあの場所で必要とされたのか？発案者は誰だったのか？みなとみらい 21 は都市計画として革新的だった？
C 5	なぜ三浦半島を選ぶのか ～活断層の上での暮らし～
	地殻変動による地震や津波のリスクが少ない三浦半島だが、そこに暮らすひと達がいる。天災のリスクを軽減するための防災対策と、リスクを上回る三浦半島の魅力を分析し、なぜ選ばれるのか考察する。

4. Team C が考える「かながわの深層を支えているもの」

我々は個々の研究を通して深層を探り、神奈川の表の顔を支える裏の努力、未来につながるべきものを明らかにした。ゼロから作り上げたみなとみらいの街に込められた思い、地質に立脚した観光と防災の二面性、継続的なダム開発と森の保全に守られた美味しい水、交通網の立ち寄りポイント道の駅に期待する地元経済、人知れず悩める人を温かなところで救ういのちの電話。各メンバーの研究から、表から見える神奈川の暮らしを支える見えない努力や工夫は、高度経済成長期以降においても継続されていることがわかった。

では神奈川は本当にいいところなのか。東京のベットタウンとして地域振興や都市開発において政治や政策に振り回されているのではないか。各研究テーマを通じて明らかになったように、神奈川の県や市町村は中央とは違う独自のアプローチをしてその魅力を高めている。

移動手段や通信手段が発達したことで、生活も仕事も心配なく、住みたいところに住める時代になった。我々はそんな時代に神奈川に住んでいてよかったと、あらためて思った。

5. 各テーマの取り組みの面白い点、興味深い点

道

の駅：

- ・当たり前のように跋扈しているが実はステレオタイプがあるのでは
- ・神奈川の道の駅はどれも小規模。地方のような大型施設がないのも不思議

水

の恵：

- ・面積は小さいが人口密度が高いことから水の供給体制を構築する難易度が高い
- ・神奈川県の水源環境保全税は他県の森林環境税と違って目的が明確で良いと思った

横

浜いのちの電話：

- ・全く新しい視点と知識だった。いまでも続けているのが心強い
- ・横浜いのちの電話がスペイン語とポルトガル語に対応しているのに驚いた

み

なとみらい：

- ・街が変わる様子は目にして来たが開発の端緒については考えたことがなかった
- ・50年でこれほど環境が変わった地区はないのでは？

三

浦半島と活断層：

- ・地質は古代から億年単位で考える長〜いもの。一方で生活に密接に関連している
- ・50年前にこれほど地学に関心を寄せるひとはいたかしら？誰の功績？

6. Lib 活 第3期の活動に関して（学び、気付き）

- ✓ みなとみらいの開発の異常とも思える長い期間軸とその原因
- ✓ 神奈川県の水がめである4大ダムを訪れて体感した設計思想の違い
- ✓ 県立公文書館のバックヤードは面白かった。貴重な保管文書の裏にある膨大な廃棄書類
- ✓ 県立公文書館はとても静かで、集中して調べ物をするのにいい場所ですね！
- ✓ ドイツでは市民が水や大気環境汚染測定活動に参加している
- ✓ グループメンバーの関心に牽かれて視野が広がるのは楽しい経験でした。
- ✓ 神奈川県が多様な地質に感動。いつも見ている風景が違って見えて面白い。
- ✓ 住んでいるまち、働いているまち、遊びに行くまち。。。それは誰が仕掛けたのか。考えたことがあまりなかったので面白かった。